

神奈川県環境学習リーダー会 会報 No. 31 (第2部)

部会活動

環境モニタリング部会

部会長 佐伯 秀夫

14年度部会活動報告

1. 「県民参加による環境モニタリング手法」の実践活動

当部会は、KERCが当リーダー会の協力を得て平成10年度以来進めて来た標記の環境モニタリング手法の開発が12年度を以って終了することになった為に同手法を実践に活かすための組織として発足した。そのため本年度は13年度に続く2年目の実践活動となった訳であるが、未だ解決すべき問題点が残っていると考えている。その代表的なものとしては、調査結果に基づく「環境マップづくり」体制の遅れ、調査活動を効率的に進めるために変更した「調査票」の取り扱い上の不具合、当リーダー会員、一般市民への参加PRの不足、等が挙げられるが、ここで取り上げた3点については、平成15年度に可能なところから改善を図り、実践していく計画である。

尚、平成14年度の実績は次のとおりである。

1) 自然度調査

- a. タンポポ：主として4月調査
参加者：27名
「セイヨウタンポポ」件数：1189件
「カントウタンポポ」件数：248件
- b. ツバメ：主として6月調査
参加者：19名
「ツバメの巣がある」件数：140件
「ツバメを見た」件数：69件
- c. ジョロウグモ：主として10月調査
参加者：7名
「ジョロウグモがいた」件数：214件

2) NO₂調査

- a. 6月調査：
捕集管組立て：6月1日(土)
サンプリング：6月6日(木)～7日(金)
の24時間
地点数：230(自宅庭、自宅周辺、交通量の多い所)
分析測定：6月16日(日)

b. 12月調査：

- 捕集管組立て：12月1日(日)
- サンプリング：12月5日(木)～6日(金)
の24時間
- 地点数：276(自宅庭、自宅周辺、主要幹線道路の高濃度地点)
- 分析測定：12月15日(日)

2. 「酒匂川水系探水隊」活動の実施

KERCが平成13年度から推進することになった「酒匂川水系生物調査計画」に協力するとともに水系生物学の研鑽を深めることを目的として、本年度もKERCの石綿専門研究員のご指導を得て、4月8日の第1回勉強会をかわきりに計7回の水生生物調査活動を実施し、その結果、酒匂川本流の中流以降、支流の川音川・中津川・四十八瀬川、下流付近の主要用水路等について、概ね調査を終了させることが出来た。

3. 「子ども環境体験教室」への参加

本年度夏、環境科学センターが開催した標記「子ども環境体験教室」に関し当部会としては下記3つの教科について実施することとなり、夫々に担当者を定めてカリキュラムづくり、教材づくりを行い、効果的な学習の実現を図った。実施結果をまとめると次頁の表のとおりである。

4. 「親子で楽しむ環境展」への参加

- K・リーダー会の主要行事の一つとして実施した。
- 日時：6月9日(日)10:00～16:00
- 場所：かながわ県民センター 1F展示場
- 主要展示：
相模川、酒匂川の魚、水生生物
「タンポポ」、「ツバメ」、「ジョロウグモ」、「NO₂」の各「環境マップ」パネル(計4枚)
酒匂川「調査マップ」パネル(1枚)
エコアナライザー
- 展示担当：
：斉藤昭一、杉崎茂、小林義博、古谷敏夫
：佐伯秀夫、伊井幸保、村上 述

5. 「相模湖町・親子で考える環境展」への参加

- 相模湖町で開催された環境シンポジウムと併行して実施された「環境展」をK・リーダー会が担当することとなったため、当部会も参加した。
- 日時：1月26日(土)10:00～16:00
- 場所：神奈川県立相模湖交流センター
ホール・ギャラリー

🔍 ○主要展示：

「タンポポ」, 「ツバメ」, 「ジョロウグモ」
 「NO₂」環境マップ集
 「ウメノキゴケ」, 「アサガオ(スカーレットオハラ)」で大気汚染調査
 「身近な環境調査のお願い」と説明資料
 酒匂川調査説明図、水生生物説明書

○展示担当：齊藤昭一、花上友彦、猪股満智子、
 柳川三郎、古谷敏夫

15年度部会活動予定

1. 環境モニタリング手法に関する実践活動の実施

いよいよ K・リーダー会のホームページによる環境マップの広報体制が整ったので、一般会員の下記の調査活動への参加を歓迎します。

1) タンポポ

調査事項：「カントウタンポポ(印)」か「セイヨウタンポポ(印)」か「その他タンポポ(印)」の種類調査

調査期間：3月中旬～5月中旬

提出締切：5月31日

提出文書：地番が分かる地図(略図でも可)又は地番を明記した文書に種類の印を明記したもの

提出先：神奈川県環境科学センター・環境学習グループ宛

2) ツバメ

調査事項：「ツバメの巣がある(印)」と「ツバメを見た(印)」

調査期間：5月中旬～7月中旬

提出締切：7月31日

提出文書：1) と同じ

提出先：1) と同じ

2. 6月 NO₂一斉測定活動の実施

6月は神奈川県環境月間に当たり、例年通りNO₂の一斉測定を実施するので、一般会員も下記の測定活動への参加を歓迎します。

1) サンプルング

指定サンプルング日時：

a) 取り付け：平成15年6月5日(木)
 18:00以降

b) 取外し：6日(金)～24Hr

サンプルング場所：

a) 測定者の身近な地点(自宅の庭、周辺道路)

b) 主要幹線道路の交通混雑地点(前回測定地点優先)

2) 捕集管の組立て並びに配付

日時：平成15年5月24日(土)

13:30～16:00

場所：神奈川県環境科学センター1F実習室

注) 配付を希望する方は出席して下さい

3) 分析測定

日時：平成15年6月14日(土)

13:30～16:30

場所：神奈川県環境科学センター1F実習室

4) 連絡先：環境モニタリング部会 佐伯秀夫

Tel/Fax 045-711-6170

Eメール hsaeki@onyx.dti.ne.jp

3. 部会例会の開催

日時：平成15年5月24日(土)

10:00～12:00

場所：神奈川県環境科学センター2F会議室

詳細は別途連絡します。

表：「子ども環境体験教室」の実施状況

| | 教室名 | 日時 | 内容 | 参加者 | 講師等 |
|---|-------------------|-------------------------|---------------------------------------------|-----|----------------------------------|
| 1 | 川について調べよう | 7月21日(日) 10:00～15:00 | 水の説明と 川の水質調査実習 水生生物調査方法 調査結果のまとめ | 17名 | 齊藤(昭) 杉崎 齊藤(美) 柳川 古谷 |
| 2 | 大気について調べよう 第1日 | 8月6日(火) 13:00～15:30 | 大気の汚れの現状 捕集管組立て実習 | 20名 | 飯野 田村 佐伯 村上 |
| | 第2日 | 8月9日(金) 13:00～16:00 | NO ₂ 測定実習 マッピング作成 調査結果のまとめ | 同上 | 同上 |
| 3 | 自然について調べよう | 9月8日(日) 13:00～16:00 | 自然環境生物指標 野原での観察実習 環境マップと調査のまとめ | 5名 | 花上 猪股 村上 |

エネルギー部会

部会長 北村 博子

部会活動紹介

1. 【省エネ】から【少エネ】へ

「簡素で楽しく、心豊かに」を目標として、生活の見直しを図り、「少エネルギー生活」を提唱。

「少エネルギー」とは、科学技術文明の恩恵にあずかる者の、エネルギーに依存した、エネルギー多消費型生活をもたらしている問題を、日々の暮らしの中から、見直しを正していこうとするもの。言い替えば、「意識変革」。「欲望」とは、歯止めを掛ければ行き着くところ知らず、無制限に増大するもの。本来少ないエネルギー消費で済むものを、無駄に多量に消費してきている事への自覚と反省から、「省エネ」ではなく、「少エネ」と名付ける。

2. 【心から心へ】(心を耕し、心で紡ぎ、繋ぐ)

【環境問題に対する意識の高い人達のグループは、そうではない人達のグループより、「16%」エネルギー消費量が少ない。】と言うデータがある。

「環境家計簿」「省エネルギー」は、「生活の見直し」、「社会の仕組みの在りようの見直し」を目標として、【豊かさ】の問い直し、【シンプルライフ】への過程を見失わないようにしたい。

「【科学技術】の発達により、物質的生活の豊かさに耽溺して、得たものは、【欲望の飽くなき増大・肥大】と【精神の脆弱性】【精神的生活の枯渇】ではなかったか。【科学技術】は【諸刃の刃】であると、常に自戒することが求められている。」との思いと、「【物質的豊かさの充足に対比して、あぶり出された【精神的充足感の欠如】が、おそらく若年層の精神的危機を招来しているのではないか。」という事が、最近の社会的傾向から見て取れる。

予期し得ない将来の環境「不安」と、だからこそ其処に幾らかの「曙光」を見いだそうとする「希望」を繋ぐ。環境リーダーは、地球環境「不安」を、「希望」に紡ぐ「魔術師」か「ピエロ」か。「希望」と「不安」、「不安」と「希望」と、「パンドラの函」を開けてしまった環境リーダーは、希望と不安の狭間で「アンビバレント」な存在である。

エネルギー部会、及び「神奈川県環境学習リーダー・エネルギー会」では、小学校児童・幼稚園児に向けた「エコカルタ」「エコ紙芝居」を作成し、若い人達に先ず私たちの「メッセージ」を伝え、「未来に引き継ぐ豊かな地球環境」の保全を目的として、少エネルギー行動・少エネルギー生活を提唱してきている。

リーダーの環境保全に対する【思い】を、【エコカ

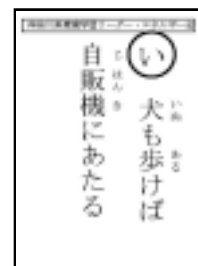
ルタ】【エコ紙芝居】に表現し、実演の中のやり取りで、その【思い】を伝え、【心から心へ繋ぐ】事を目標としている。

3. 【エコカルタ】

「エコカルタ」は、日常生活における日本人の知恵が「喩え」「ことわざ」として定着したものを「いろは仮名」に当てはめ、常識として生活に反映させてきた事に因み、身近なことから環境保全の知恵・知識を日常生活行動の常識にしようとするもの。

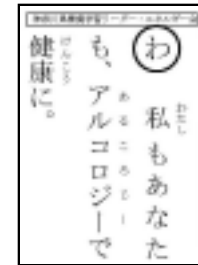
1) 【エコカルタ】の内容例

【い】【犬も歩けば、自販機に当たる】



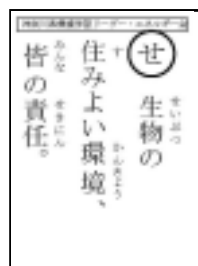
解説 (具体的な数値を示した省エネ効果等): 「日本全国に設置された 24 時間使用自販機の消費電力量は、大凡、原子力発電 1 基分。缶・ペットボトルのリサイクルも大変です。」

【わ】【私もあなたも アルコロジーで健康に】



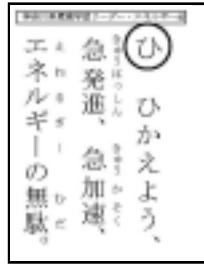
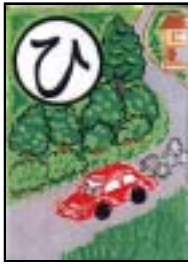
解説 : 「自家用乗用車の排気ガスは、日本中の家庭から排出される CO₂ の約 35% になります。20 分位なら歩いて、排気ガスを出さず吸わず、健康に暮らしましょう。」

【せ】【生物の住みよい環境 皆の責任】



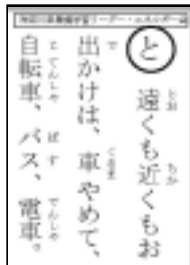
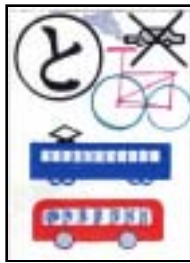
解説 : 「人の生命は、動・植物によって支えられています。その動・植物と一緒に生きる事の出来る環境を守るのは、皆の責任です。」

【ひ】【ひかえよう、急発進、急加速、エネルギーの無駄】



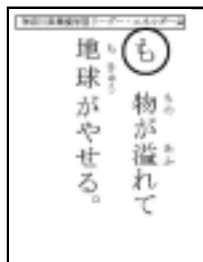
解説：「急発進・急加速を 10 回繰り返すと、乗用車でガソリン 120cc がムダ。年間約 3000 円。CO₂ 排出量 64.4kg、全国家庭 1 家に 1 台で 302 万 8700t、ディーゼル車では 15% の燃料がムダになります。」

【と】【遠くも近くもお出かけは、車やめて、自転車、バス、電車】



解説：「自家用乗用車は電車の 9 倍、乗り合いバスの 2.5 倍（旅客輸送機関の CO₂ 排出原単位比較）20km 走れば、風呂 5~6 回分沸かした時の CO₂ が出ます。また健康のためにもできるだけ歩きましょう。」

【も】【物が溢れて地球がやせる】



解説：「ここ 50 年間、人類は大量に物を作り、使い、捨ててきました。資源の無駄使いは地球を汚すとともに物の無い生活をしている多くの人達を生み出しました。地球に、他人に優しい暮らしをしましょう。」

2) エコカルタ取り

エコカルタ取りは、子どもも大人も楽しめる「エコ知恵袋・エコミニ事典」を開くこと。

「エコ知恵袋・ミニ事典」を紐解き中をかいま見た後は、各自取った札の中から、挑戦してみたい「項目」の札を選び、其の項目が達成出来るように「生活の見直し」点検を行う。「少エネ点検プログラム」

の説明と、その実践を約束する。

21 世紀における地球環境倫理の形成を願い、「エコいろはカルタ」が、環境に対する日常生活の指針として定着し、生活に反映され、「省エネ生活」以前の「シンプルライフ」が、日本の生活の常識となることを願っている。

4. 【エコ紙芝居】

【エコ紙芝居】は、演じる側の環境への思いを、子どもに紙芝居を通じて伝え、子どもとのやり取りの中で、その思いが子ども達に伝わった時に、共感を得ることを目的としている。

親子の会話の中で、「家庭と環境との関わり」を、日常生活の中で、「生活行為が環境に及ぼす影響」を考える。持続可能な社会の必要性、社会的責任を自覚し、環境改善を考え、目標作りと行動を決める。

活動報告

1. 「親と子の楽しい省エネ教室」後援
7月21日、10月13日、11月17日、
2月2日、3月25日、3月30日
2. 「子ども環境体験教室」K.E.R.C
「楽しい省エネ教室」担当、講師派遣
7月28日、8月24日
3. 環境展・展示会 参加出展
1) K・リーダー会「親子で楽しむ環境展」
2) 相模湖町「親子で考える環境展」
3) 横浜市神奈川区「友・遊フォーラム」
展示指導と支援
4. 例会
4月14日(日)、5月19日(日)、6月23日
7月21日、8月18日、9月22日、
11月10日、12月15日、1月19日、
2月9日、3月3日。

活動予定

1. 環境展
1) K・リーダー会「親子で楽しむ環境展」参加
日時：6月8日(日)10時~16時
場所：かながわ県民センター 1階展示場
2) 横浜市「環境月間パネル展」参加支援
日時：6月9日~6月15日
場所：横浜市市民活動支援センター
2. 例会
1) 日時：4月13日(日)14時~17時
場所：かながわ県民サポートセンター 603
2) 日時：5月25日(日)14時~17時
場所：かながわ県民サポートセンター 704

ケナフ部会

部会長 荒谷 輝正

14 年度部会活動報告

環境科学センター及び環境学習リーダー会のご協力と支援を得て、ケナフ部会の活動も5年目に入りました。

環境科学センターの隣地を延長して利用させて頂く為に過去4年間の活動状況を纏めました、今更ながら貴重な体験をしたなと思っています。この経験を生かして、地球環境の改善と言う共通の目標に貢献出来ればと決意を新たにしました。

14年度の活動を対外活動とケナフ部会内とに分けて次表にまとめました。

| 2002 年 活 動 | |
|-----------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| 対外環境活動 | センターでの部会内活動 |
| 1/30 横浜市私立聖ヨゼフ学園小学校 A、B 組 80 名と作業ケナフ刈り取り、皮むき、タタキ、粉碎 | 2/10 (日) ケナフ部会定例会 |
| 2/6 (木) 横浜市私立聖ヨゼフ学園小学校 A、B 組 80 名とケナフの紙漉 | 3/24 (日) ケナフ部会定例会 畑越し |
| 4/6、7 荒谷 (相模原ケナフの会) 相模原さくらまつりで、紙漉を実演、その他ケナフ製品の販売 | 2/10 (日) ケナフ部会定例会 ケナフの種まき 午後環境学習リーダー会総会 |
| 4/25 (木) ケナフの講演会「小林良生先生」 午後 1:30~3:30 21 名参加 | 5/19 (日) ケナフ部会定例会 |
| 5/9 (木) ~ 14 (火) 平塚市ケナフの展示品の準備及び展示 (平塚市市民プラザ) | 6/16 (日) ケナフ部会定例会「古紙の紙管で写真たて作り」試作会 |
| 6/9 (日) 環境学習リーダー会主催「親子で楽しむ環境展」参加 かながわ県民センター | 7/21 (土) ケナフ部会定例会 草取り、打合せ |
| 6/22 (土) 23 (日) 荒谷 相模原ケナフの会、ソレイユ男女共同参画センターで「紙漉」実施 | 8/2 (木) ケナフチップの吸着実験 (指導: 高橋専門 研究員、野崎さん) |
| 静岡大学農学部、圃場での残滓の利用法の研究でケナフを供給 | 8/18 (日) ケナフ部会定例会 |
| 6/29 (土) 環境科学センター主催子供環境教室「古紙の紙管で写真たてを作ろう」実施 | 9/18 (水) 「子供環境体験教室」反省会 環境科学センター、環境学習リーダー会 |
| 7/4 (木) 横浜市立小学校 5 年 B 組「ケナフを育ててみませんか」指導 | 9/19 (木) 「親子で楽しむ環境展」反省会 かながわ県民センター |
| 7/20 (土) 相模原市北公民館で「ケナフ紙漉実施」(どなべの会) | 11/23 (土) ケナフ部会定例会「ケナフの刈り取り」 |
| 8/2 (木) 平塚消費者センター主催 夏休み親子消費者教室「ケナフ染め」応援 | 12/15 (日) ケナフ部会定例会「ケナフの刈り取り」 |
| 8/17 (土) 桐蔭横浜大学夏休み「おもしろ理科教室」200 名以上の子供たちがケナフ紙漉体験。 | 2/16 (日) ケナフ部会定例会 大判 (A3、A4、色紙大) の紙を漉く |
| 8/22 (木) 平塚市消費者センター主催「夏休み親子消費者教室 ケナフ染め」応援 | |
| 8/28 (水) 小糸 藤沢青少年協会主催「ケナフ紙漉教室」を実施 37 名参加 | |
| 9/7 (土) 環境科学センター主催子供環境体験教室「ケナフ染めに挑戦しよう」21 名参加 | |
| 9/17 (火) 愛川半原「繊維会館」和紙工房で愛川国際ソロプティミスト協会と合同でケナフの紙漉体験 | |
| 11/1 (金) 秦野市立東小学校 6 年 2 組 3 組の約 70 名にケナフの話とケナフの紙漉方法について講義 | |
| 11/22 (金) 秦野市立東小学校にて生徒が育てたケナフのチップ化の指導 | |
| 12/1 (日) 荒谷 相模原市小山二丁目自治会に「ケナフ紙漉」を指導 | |
| 12/10 (火) 秦野市立東小学校にて「ケナフ紙漉」の指導 | |
| 1/26 (日) 相模湖町主催「親子で考える環境展」に参加「紙漉実施」 | |

| | |
|-------------------------------------------|--|
| 平塚市青柳自治会での「ケナフ紙漉」応援（環境学習リーダー柳川さんからの要請による） | |
| 2/22（土）愛川町役場主催「ケナフで作るはがき教室」愛川町文化会館に応援 | |

15 年度部会活動方針と 4 月～ 6 月予定

15 年度も 14 年度同様、環境学習リーダーとして各々の地元でリーダーとなり、地域同士の連携をはかり、環境科学センターを利用させて頂き、更なる研修を図っていきたく考えています。

具体的には：

1. 各地で催す展示会に我々の活動を積極的に参加させます。
- 1.1 5 月開催の平塚市民プラザでのケナフフェア展に出展
6 月 8 日環境学習リーダー会主催「親子で楽しむ環境店展」かながわ県民センター等を現在予定しています。
- 1.2 子供環境教室開催（環境科学センター学習室）
「古紙を利用した写真立て作り」（仮題）
「ケナフ染め」（仮題）に協力。
- 1.3 各地でのケナフ紙漉きに協力していきます。

ケナフの紙漉き協力については横浜市、平塚市、藤沢市、相模原市、厚木市等の各地でケナフ部員が協力要請されています。

14 年度同様小学校からの協力依頼も来ています。

2. 地域でのケナフ部会の結成に協力していきます。
3. 更なる研究活動及び講演会を開催します。
15 年度もケナフが関係する講演会又は見学会を予定します。

15 年度も環境学習リーダーの更なるブラッシュアップの為に、環境科学センターのご協力を得て、14 年度から一部実験を始めた、ケナフ染め、炭焼き、編物等の更なる充実を計るとともに、講演会等も積極的に開催する所存です。

最後に環境学習リーダーのご支援、ご協力の程をお願いいたします。

自然環境部会

部会長 柳川 三郎

新しい活動（世界水フォーラムが開催のとき）

自然環境保全の活動をするためには、仲間がなければ前進が出来ないと考えて、清水代表になぜ自然環境部会が休眠なのか、又、ほかの人にも聞きましたところ、自然環境は地域ごとに沢山の K・リーダーががんばっておられることを知りました。何かできないかと K・リーダー会会報の No.27、No.29 号に掲載しましたが、誰からも一緒に取り組みをしようとの声はありませんでした。

12 月に 4 人から水環境部会を新設しようとの声がありました、1 月にある人から水環境部会を新設するのはいかなものかと批判をされました。新しい活動を展開するのに参加もしない人から批判をされたことは理解できない現象です。

水環境部会の新設リーダー予定者ももう少し時間をかけようとなっていますが、今は 6 人がその気持ちを堅持しています。

1 月の相模湖町の環境展では自然環境グループとして酒匂川と身近な公園の野鳥や野草を展示いたしました。

以下は私が地元平塚で行なった自然環境活動です。
一人の K・リーダーと地域の仲間の活動（金目川をきれいにしよう）

「金目川」は徳川家康ゆかりの川で「金目川をきれ

いにしよう」と平成 14 年 3 月に私と地域の仲間 12 人で活動を開始いたしました。

14 年 3 月・「金目川」南金目地区で不法投棄ゴミの清掃、ゴミの量は 4t 車 2 台分、参加者 55 人

5 月・全国の人に、坂東 7 番、金目観音堂の近くの「金目川」をゴミ清掃してきれいなところをと思い、参加 11 人

5 月から 10 月・「金目川」南金目の青柳地区の土手を草刈、11 回、延べ参加 63 人

「金目川」のきらきら光る流れ・セキレイ、カワセミの舞う川面、霊峰富士の眺めと新しい土手道の創造

15 年 1 月・「金目川」南金目地区の自然観察会、

主催：フィールド・スタッフクラブ
地元みずほ小学校の親子と参加者 83 人、帰路は土手のゴミ清掃

2 月・「金目川」流域ネットワーク・フォーラムで私の提言、「金目川」の上流・中流・下流まで

「みんなでやろう不法投棄ゴミ清掃」
近い将来にぜひ実行をしたい

3 月・「金目川」金目地区全体で不法投棄ゴミの清掃の輪がひろがり「金目川」がきれいになりました。参加者多数

尚、この活動には神奈川県平塚土木事務所・河川許認課、平塚市経済部農産課へ何度も交渉を行いゴミ袋、ゴミの集積場から搬送等について協力を受けました。

廃棄物・リサイクル部会

廃棄物・リサイクル部会担当 石丸 博司

1 年間の活動報告

昨年 5 月から 14 回、ゴミ問題を含む市民生活における環境問題へのかかわりや、その問題意識と環境保全活動のアプローチについてワーキング活動を行って来ました。主な課題は「ひと」と「環境」にやさしいまちづくり」に向けた「エコライフ健康診断」の診断書づくりでした。

何回かの試みと演習の結果活用出来そうなものが出来ました。また仕上げに今まで関わってくれたメンバー 18 名の方に検証してもらいました。4 月に降に仕上げたいと思います。(後記「エコライフ診断とは」参照)

今まで関わってくれたメンバー(敬称略)

安彦正一、有賀正明、石川敬一郎、岩田寿郎、上野和雄、小川慎、川端昌昭、黒澤宏、児玉勇、高田重直、内藤克利、市川文子、原 順子、原 千秋、紫牟田久子、花上友彦、石丸博司

3 月の部会で明確にしたこと

I. 部門の存在理由と方針

循環型社会推進基本法のもとで、法整備が行われ、民間のボランティアの活動と相俟って積極的に推進されています。しかしゴミの減量化は思ったほどに進んでない。それは、容器包装リサイクル法に代表されるような、リサイクル費用を事業者が負担する仕組みができたことで、事業者はごみ問題は解決したとして、今までと変わらずに、多種多様な品物が市場に投入され、それが廃棄されているからです。

リサイクル社会は我々が究極的に目指す社会ではありません。あくまでも出てきたものを処理する解決策でしかなく、ゴミの減量には必ずしも役立っていないのが現状です。

大量生産・大量消費を支えているのは、消費者自身であるとの認識で消費者の消費性向を変えることが最も重要と考えます。即ち「シンプルライフ」の実践です。

「大量生産・大量消費・大量廃棄の社会」に代わる「持続可能で簡素な、生活の質を重視する地域の循環社会」の形成を我々が目指す目標にしたい。

II. 目指す目標

シンプルで質の高い暮らし

「モノにあふれた便利な暮らし」から現在の生活の質を損なうことなく環境にやさしい「シンプルだけれど魅力のある心の豊かな暮らし」のエコラ

イフを目指して。

豊かな自然環境に囲まれた暮らし
きれいな水や澄んだ空気、さまざまな生き物や豊かな緑、そんな環境に囲まれた人間らしい暮らし、を目指して。

「大量消費」から「3R(Reduce・減らす、Recycle・再資源化、Reused・再利用)プラス、Refuse・断る」を促進する。

地球の汚染は、既に限界を超えているという意識のもとに、「環境容量」を意識した生活を目指す。地域生活圏での循環型社会の形成

地域の産物を地域で消費する暮らしの推進。

食品は作った人の顔が見える安心した関係をつくる暮らしを目指す。

スロー(ゆとりのある)ヘルシーで、地域社会のつながりを実感できる暮らし。

地域に住む人たちが協力しあって、街並みのこと、子供の教育のこと、健康のこと、環境のことそして地球環境のことについて一緒に考えられる地域のつながりのある暮らしを目指す。

大局着眼・着手小極(Think Globally, Act Locally)の考え方で課題の設定や、地域の自立性と個々の主体の相互依存関係を促進する。

III. 廃棄物・リサイクル部会当面の使命

《シンプルライフの推進に向けて》

基本方針を具体化する 3 つのポイントで。

(何を・誰に・どのような方法で)

A. 何を(WHAT)事業内容・サービス・顧客、利用者の機能

I. 「無駄を省いた暮らし」の実践。

……シンプルな暮らしを推進。

1. 賢い暮らしの工夫 - 無駄を押える暮らしの工夫の推進
2. 賢い消費者として - 環境に負荷を与えるものを持ち込まない工夫の推進
3. ゴミの減量との賢い付き合い方 - 廃棄物の有効活用・適正処理の推進
4. 再生品の活用を積極的に推進する

II. 上記に係わる環境教育・必要な機材・ツール(パンフレットを含む)手法の開発と作成、および情報等の提供を行う。

III. 調査のためのパイロット事業を推進する。

B. 誰に(WHO)顧客・利用者・市民・団体 WHATは誰に提供するのか

I. K・リーダー会地域推進メンバーからの期待に対しツールやノウハウの支援

II. 行政の当該セクションへの働きかけと連携の促進

1. 県の計画した事業の推進役として普及啓発活

動を担う

2. K・リーダー会で立案したプロジェクトの採用に向けた積極的な働きかけ
- ### III. 個々の地域主体者に対する働きかけと連携の促進
1. 地域住民、婦人会
 2. 町内会・自治会・自治会連合会・老人シルバ一会
 3. 商店会・流通小売店・工業会・商工会議所・農協
 4. 子供会・PTA・小学校、中学校
- ### C. 方法（HOW）活動方法・技術・提供方法
- どんな方法が成功に結びつくか・ポイント
- #### I. 地域特性を踏まえた推進方法を明確にし、推進の効果を高める
- （モデル地域による展開・環境学習方法やワークショップ方法の検討）
- #### II. エコライフ健康診断ツールと有効な適用方法の提供
- #### III. 部員による地域の各主体への働きかけと、K・リーダー会地域推進メンバーとの連携と積極的な支援
- #### IV. ホームページの開設やインターネット利用、会報等による広報活動の推進
- #### V. その他必要のある手法の導入や他のセクターとの積極的な連携を計る

以上ですが今後役員会や他の専門部会との関係も含めて、更に検討します。

今後の活動予定

方針や使命の具体的な展開や実践に向けた検討に入ります。

4月15日（火）13：00～17：00

5月13日（火）13：00～17：00

会場：えびな市民活動サポートセンター

電話：0462 - 35 - 6845

尚会場は6月以降は横浜か大和付近も含め検討したいと思っています。

エコライフ健康診断とは

I. エコライフ健康診断の趣旨

私たちの快適な生活環境を守る為に、環境問題は重要な問題です。身近なゴミ問題、食品の安全、地球温暖化、自然環境の破壊など地球規模で進んでいます。また豊かで美しい身近な環境を次世代に引き継ぐ為にも、環境問題を引き起こしている現代の私たちの生活様式を、環境にやさしく、かつ私たち自身にとっても、より人間らしい豊かなものに変革していく取組みが求められています。

そのためには私たちの日常生活を振り返ってみることは大切なことと思います。そして身近な地域社会を通して市民の一人として、自分たちでできるところから始めたいと思います。

II. エコライフ健康診断とは

私たちの住んでいる「**地域社会の環境面からの健康診断**」を指します。

例えば人間の健康診断は、自分の日常の生活が、自分の健康にどんな影響があるのか、系統だった質問に答えること（意識的・無意識的なこと）によって、自分の気になっている健康状態やこれからの健康管理の進め方がある程度明確になります。

III. 健康診断の主な内容と進め方

シンプルライフ・無駄を省いた暮らし

クリーンに暮す・環境を汚さない暮らし

食 - 農地域循環社会・地域の産物を地域で消費する暮らし

ナチュラルに暮す・自然と共に生きる暮らし等

について複数の質問に答えることによって、自分の生活の中でどんな事を大事にし、今後どんな努力をする必要があるのか等を明確にし、認識出来るようになります。

主な進め方

モデル地区の設定

個人の診断 回収 集計

診断結果に基づく話し合い

現状認識と課題設定

希望する姿

目標設定

期間を決めて地域で実践活動

・活動の評価と次への展開

展開に当たっていくつかのオプションがあります。

「ひと」と「環境」にやさしいまちづくり。展開 地域の健康診断の実施と目標設定

地域の健康診断

- ・診断の目標方針確認
- ・診断項目
- ・配布・回収方法確認
- ・配布・回収
- ・集計
- ・分析
- ・報告書作成
- 診断結果個別配布

診断結果に基づく話し合い 現状認識と目標設定

- ・診断結果報告・説明
- 会合の進め方
- ・診断結果に関わる生活の現状の話し合い
- うまくやれていること
- うまくやれていないこと
- ・希望する姿の話し合い
- ・取り組む課題の選択・設定
- 目標設定

実施方法・進めかた 今後展開 オプション

- ・地域の展開方法
- 展開の役割分担
- 関係先との連携
- ・「ひと」と「環境」にやさしいまちづくり地域推進リーダー養成
- ・市民のための環境問題学習会の実施